

給食提供に関するSNS上の情報についての 教育委員会の見解について

北九州市の学校給食について、ネット上で様々な情報が流れています。そのすべてを把握することは困難ではありますが、その中には相当程度の誤情報が含まれていることが散見され、関連する苦情等も、5日間(9月19日～24日)で1,000件以上寄せられています。

誤解が広がることに歯止めをかけるため、この会見を開催しました。北九州市教育委員会の学校給食における考え方は以下の通りです。

【基本的な考え方】

北九州市教育委員会では、子どもたちが毎日の給食を楽しく、美味しく食べられるよう日々、力を尽くしています。地元食材の活用や栄養バランスに配慮した給食を提供し、子どもたちの成長を支えています。

一方で、食物アレルギーや障害のある子どもたち、宗教上の理由から、すべての献立を食べることができない子どもたちもいます。そうした子どもたちも大切な市民であり、一人でも多くの子どもが、友達と一緒に給食を楽しめる環境づくり、すなわち「みんなで食べれる給食」を実現するため、決められた予算、必要な栄養価、栄養バランスなどを考慮しつつ、安全安心でおいしい給食、を提供できるよう、日々努力と工夫を重ねています。

1 教育委員会がムスリム対応給食の実施を決定したという投稿について

教育委員会が、ムスリムの子ども達に特化した給食の提供を決定したという事実はありません。

なお、上記の通り、学校現場の栄養士たちが、日々の努力と工夫を重ねており、「みんなで食べれる給食」の実現を目指す中で、結果として、ムスリムの子どもたちも一緒に給食を食べられる機会は増えています。

【参考:ムスリムの子どもたちへの給食に係る議論の経緯】

令和5年6月14日に「ムスリム児童・生徒に対し、豚肉又はポークエキスといったイスラム教の教義上の禁忌食材を除去した給食の提供」を求める陳情書が市議会に提出されました。

教育委員会としては、調理に係る設備や人材確保、予算面でも課題があり、宗教上などのあらゆるニーズに対応することは困難な状況にあるとの見解を述べましたが、委員(議員)から、「全ての子どもたちが楽しく給食を食べられるよう、できる配慮をしていただきたい」「ムスリムの子どもたちに少しでも寄り添った対応をしていただきたい」などの意見が出されたことを受け、学校現場の栄養士たちが、決められた予算、必要な栄養価、栄養バランスなど既定の範囲内で、献立を工夫することにより、「みんなで食べれる給食」の実現を目指し、より多くの子どもたちが同じ給食を食べられるよう、日々工夫しています。

2 アレルギーのある子どもたちへの対応

同様に、「みんなで食べれる給食」の実現を目指す中で、教育委員会では、アレルギーのある子どもたちへの対応として、

- ① 米飯や牛乳、チーズなどのアレルゲンを提供しない「単品の一部取り除き」
- ② 通常の給食から児童が自らエビなどのアレルゲンを取り除く「副食の一部取り除き」
- ③ アレルギー食材を調理段階で除去した給食を提供する「除去食」などの方法により、児童・生徒の状況に応じた個別の対応を行っています。

【参考】

アレルギー対応給食の対象児童・生徒数

小学校	1,932人
中学校	935人
特別支援学校	56人
合計	<u>2,923人</u>

単品一部取り除き 1,944人

副食一部取り除き 810人

除去食 846人

3 「にこにこ給食」について

「にこにこ給食」は、食物アレルギーを理由として、日頃、他の児童・生徒と同じ給食を食べることができない子どもたちの、「みんなと同じ給食を一緒に楽しく食べたい」という思いに応えるために考え、提供することとしたものです。

これは、食物アレルギーの重篤度・症例数から指定されている特定原材料28品目を使用しない給食で、この28品目には豚肉も含まれています。

【問合せ先】

教育委員会学校保健課

担当：(課長) 藤田、(部長) 藤井

電話：093-582-2381